

■ 学校の共通目標

授業作り	重 点	育成したい資質・能力を明確化し、そのための工夫した手立てを考え実践することで、確かな学力の向上を図る。また、ＩＣＴ機器を効果的に活用し、個別最適な学びと協働的な学びを深めていく。	中 間 評 価	ＩＣＴ機器について、各学年で身に付ける力を確認した。今後、各学年の年間指導計画との関連を確認する。	最 終 評 価	小中連携やＯＪＴ研修等を通してＩＣＴ機器の効果的な活用方法を共有化することができ、児童の協働的な学びの充実を図ることができた。
環境作り		児童が主体的に学習に取り組めるように、学習のめあてやまとめを分かりやすく提示していく。学習内容によって、学習形態を工夫し、ペア活動やグループ活動など互いに学び合う場を作るようにしていく。		学習のめあてをホワイトボード等に提示することで、学習内容が明確になり、児童が主体的に学習に取り組むようになってきている。		学習課題を明確に提示することで、児童が課題意識をもって取り組むことができた。また学習形態を工夫することで、対話的な学びができた。

■ 学年の取組内容

学年	教科	学習状況の分析（10 月）	課 題（10 月）	改善のための取組（10 月）	最終評価（２月）	
1	国語	学ひらがな、漢字の字形を整えて書くことに困難のある児童が各学級数名みられる。 学文章を書くことに抵抗のある児童がいる。	・書字に困難のある児童に対して、基本的事項の再確認と個別指導が必要である。 ・短い文章を書くことに慣れる必要がある。	・えんぴつの持ち方、「とめ・はね・はらい」の練習をする。 ・マスの中のどの位置に書くか見当をつけてから書くことを意識させる。 ・簡単な日記、感想を書く機会を多く設定する。	・書き初めなど、丁寧に書こうと意識するとほとんどの児童は「とめ・はね・はらい」に気を付けて整った文字を書くことができるようになった。日常のノートでは雑になってしまうことがあるため、日ごろから丁寧に書くことを意識させていく必要がある。 ・国語科だけでなく、簡単な感想を書く場を多く設定することで書くことに慣れてきた。	
	算数	学繰り上がり、繰り下がりのない計算でも、念頭操作が難しい児童が数名いる。 学計算はできても、文章を読んで正しく立式をするところであまりうまくことがある。	・10の合成分解を確実にする。 ・文章を読み、内容を正しく把握して立式する。	・課題のある児童への家庭とも連携した個別指導を行う。 ・授業の中に、計算練習の時間を位置付ける。 ・文章問題の立式をするときには、図を描いて考えさせる。	・ほとんどの児童はたし算・ひき算で正しく答えを出すことができるが、そのスピードには大きな差がある。10や5を意識しての念頭操作ができず、指を折りながら数えている段階の児童には、再度の個別指導と家庭との連携が必要である。 ・文章問題で、何を問われているのかを読み取り、立式することはほぼできるようになった。	
学年	教科	学習状況の分析（４月）	課 題（４月）	改善のための取組（４月）	中間評価・追加する取組（10 月）	最終評価（２月）
2	国語	学文のねじれや誤字などがあり、自分の思いを文章で表現することが難しい。 学漢字、ひらがななど、字形を意識して書くことに個人差が見られる。また定着しているとは言い難い。	・漢字、ひらがな、カタカナの表記について、字形を意識して正確に書き取る力を伸ばす必要がある。 ・「、」や「。」を正しく使って、伝えたいことを言葉で表現する力を伸ばしていく。	・紙媒体のドリルやデジタルドリルを活用し、字形を意識して正しい書き順で書けるように定着を図る。 ・行事などの感想文や手紙などを書く取組を通して、表現する力を伸ばす。	・紙媒体のドリルやデジタルドリルの活用は進んでいるが、定着には個人差がある。さらに定着できるよう適宜小テストに取り組ませる。 ・表現する力を伸ばすため、語彙を豊かにし句読点に慣れることを目的とした読書への取組として、本の紹介や読み聞かせを行う。	
	算数	学計算はできるが、図や文章を用いて自分の考えを表現する力が十分に身に付いているとは言い難い。 学計算の速さや正確さに個人差が見られる。	・自分の考えを表現する力を伸ばしていく。 ・10の合成分解の理解を確実に身に付け、繰り上がり繰り下がりなど基礎的な計算力が身に付くように繰り返し指導が必要である。	・毎時間自力解決の時間を設定する。多様な考え方を共有し合いながら、具体物や絵、図、言葉などを用いて、自分の考えを表現する力の定着を図る。 ・東京ベーシック・ドリルやデジタルドリルなどを授業や家庭学習でも活用し、繰り返し取り組みながら定着を図る。	・毎時間ではないが自力解決の時間を多く設定することで、自分の考えを表現する力は定着しつつある。今後は集団検討の時間を多くとることでさらに定着を図る。 ・デジタルドリルの活用を進めている。今後も繰り返し取り組みながら正しく計算する力を高める。	
3	国語	学自分の考えをもつことはできるが、それを適切な言葉や文での表現が難しい。 調話し手が知らせたいことを落とさないように聞くことが難しい。 調文章を書くこと全般において平均を下回っている。	・文章を正確に読む力を養う必要がある。 ・自分の考えを文章で相手に伝えることに課題がある。	・毎日、宿題等で音読に取り組む。また、授業中には正確に読むことを意識し、人物の気持ちを押さえながら読むようにする。 ・大切な部分を聞き落とさないように、メモをとる習慣を付ける。 ・デジタルドリルの活用や漢字テストを定期的に行って定着を図るとともに、語彙を増やしていく。	・音読の時間を意図的に作り声に出して読む機会を増やしたことで、文をよく見て正しく読もうとする意識が高まっている。 ・後期は、特に話し合いの学習でメモをとる機会を意図的に設け、メモの必要性が感じられる指導をしていく。 ・デジタルドリルでの漢字学習の時間を、宿題や国語の授業の中で設定し、毎日行っている。	
	算数	調ほとんどの項目が、区の平均と同等程度かそれ以下である。特に、長さ・かさの問題においては平均を大きく下回っている。 学問題を正しく読み取って問題を解くことが難しい。	・文章問題で、読み取ったことを基に正しく立式することに課題がある。 ・量感にばらつきがあるため、日頃の生活と結び付けて考える力を養う必要がある。 ・九九が覚えられていない児童が見られる。	・絵や図を使いながら、繰り返し文章問題に取り組んでいく。 ・算数的な活動を充実させ、正確な量感を身に付けられるようにする。 ・デジタルドリルやプリントを活用しながら、九九を定期的に確認する。	・自分の考えを絵や図で表現することに慣れてきた。今後も繰り返し指導していく。 ・後期は重さや図形の学習で、正確な量感を身に付けられるように指導していく。 ・デジタルドリルやプリントを活用しながら九九の練習に取り組んだことで定着を図ることができた。後期はわり算について習熟を図る。	
4	国語	学想像したり伝えたいという思いは強いが、適切な言葉や文での表現が難しいこともある。 学文章表現で主述のねじれが見られる。 調話を聞きながら要点をつかむことが難しい。	・文章の大体は理解しているが、正確に読む力を伸ばす必要がある。 ・自分の考えの大事な部分を相手に伝える力を伸ばしていく。	・毎日、宿題等で音読に取り組む。また、授業中には正確に読むことを意識し、叙述を押さえながら読むようにする。 ・大切な部分を聞き落とさないように、メモをとる習慣を付ける。 ・デジタルドリルの活用や漢字テストを定期的に行って定着を図るとともに、語彙を増やしていく。	・物語文の学習を通して、叙述を押さえながら読もうとする意識が高まった。 ・メモの必要性を感じ、場面に応じて活用しようとしている。 ・デジタルドリルを新出漢字の確認や宿題として活用し、漢字学習を行っている。後期は漢字の小テストを週1回行い、さらなる定着を目指す。	

	算数	学文章問題の読み取りが難しい。 調新宿区学力定着度調査のどの項目も平均より高い。その中でも、「大きい数」の項目が低く、苦手な領域であることが分かる。	・数が大きくなるほど、計算のミスが多くなる。 ・量感にばらつきがあるため、日頃の生活と結び付けて考える力を養う必要がある。 ・九九が覚えられていない、コンパスでうまく円を描けない児童も見られる。	・正確に計算することを意識しながら、繰り返し問題に取り組んでいく。 ・算数的な活動を充実させ、正確な量感を身に付けられるようにする。 ・デジタルドリルを活用しながら九九やコンパスの使い方を定期的に確認する。	・計算の手順は正確に理解しているが、単位の付け忘れやケアレスミスが多いため、検算を活用した見直しなどを指導していく。 ・後期は、広さや図形の学習で量感を意識できるように指導していく。 ・九九や四則計算はデジタルドリルを活用して定期的に確認している。コンパスや定規の使い方は引き続き指導していく。	・文章問題の大切な数字や答えに使う単位に印を付けながら読むことで、場面に合った式を立てられるようになってきている。 ・概数や小数を使ったかけ算やわり算を苦手に感じている児童が多い。位を着実に計上できるように継続した指導を行う必要がある。
5	国語	調書くことについては、区の平均より約11ポイント上回っていた。一方で、漢字は区の平均より5ポイント低く、一層の定着を図る必要がある。 学互いの話を聞いて、共通点や相違点を見付けることに関して課題が見られる。	・漢字を正しく覚え、書く力、読む力を伸ばす必要がある。 ・「話す聞く」では、話の内容が明確になるように話し、話の目的や意図に応じて、内容をとらえる必要がある。	・漢字学習については、タブレット端末を利用するだけでなく、ワークシートで書いたり、ミニテストを実施したりして、定着を図る。 ・話し合いの目的を明確にし、内容の共通点と相違点を考えながら聞く取組を行う。	・漢字ノートを用意し、新出漢字については、漢字を書く量を増やすとともに熟語や文章を書くようにし、定着を図るようにした。 ・立場を明確にして話し合いをすることで、自分の考えを、筋道を整えてまとめられるように引き続き指導していく。	・漢字ノートやワークシートを用いて、繰り返し漢字を書くようにし、定着を図った。今後も文章を書く際には、既習漢字を使うように指導し、自信をもたせる必要がある。 ・話し合いの場を多くもち、視点を明確に示すことで、共通点や相違点をふまえて話をすることができた。
	算数	調総じて区の平均より上回っている。観点別に見ると、主体的に学習に取り組む態度が他の観点より低かった。また、小数は区の平均を2ポイント上回っているにとどまった。 学自分の考えをノートに書く際に、公式を使って数式だけで解く児童が見られる。図や言葉を使って表す力をより伸ばしたい。	・学習したことをもとに、今後の学習や生活に活用する態度を養う必要がある。 ・小数の構成について十分な理解ができていない部分があり、小数の位の位置の移り方を指導する必要がある。	・学習の見通しをもち、次時の学習に意欲をもたせるため、毎時間、学習の振り返りを書く取組を行う。 ・小数のかけ算、わり算の単元では、小数をかけること、わることの意味を抑え、計算の仕方を図や式を用いて考える力を養い、東京ベーシック・ドリルやデジタルドリルを家庭学習で週1回課などして、児童の習熟を図る。	・単元の中で、何度か振り返りを書く機会を設定し、観点をもって振り返りできるようにしている。 ・小数と分数の関係を抑える中で、様々な数の表し方の理解を深めている。デジタルドリルを継続して活用して、習熟を図る。	・振り返りを書かせるだけでなく、学習プリントを準備し、自ら学習に取り組む環境をつくることで、主体的に取り組むことができた。 ・学習の中で意図的に図や数直線を書かせることで、数的関係の理解を深めることができた。
6	国語	調領域「読むこと」の正答率は、新宿区学力定着度調査の区の平均を1.4ポイント上回った。特に「物語の内容を読み取る」の設問では区の平均を3ポイント近く上回り、力を付けていることが分かった。 学校内研究の取組の成果として、読む力が定着しているといえる。その一方で、筆者の考えや自分の考え、物語文の感想を書く力が不足している。一問一答の発問には積極的に答えられるが、主観的な考えを求める発問に対して消極的な姿勢が見られる。	・領域「書くこと」に於いては、新宿区学力定着度調査の区の平均正答率を6ポイント近く下回り、特に「かべ新聞を書く」内容では、10ポイント以上下回っている。内容を整理してまとめて書く力を伸ばしている。 ・言葉の特徴や使い方に関する力がまだ十分に身に付いていない。言葉にこだわった指導が必要である。また、行間を読み取らせたり、思考が深まるような発問を精選したりする指導が必要である。	・課題に対して自分の考えをもち、根拠を明確に示しながら、書いていく時間を十分に設定していく。授業後にめあてに対する振り返りを三行程度書かせ、適宜評価することで書く力を育てていく。書くことが苦手な児童には、キーワードをつなげて書くように指導する。 ・小単元ごとに短文で言語事項に関わる学習に取り組む時間を設けていく。また、小単元ごとに漢字の小テストを行い、定着を図る。定着が不十分なものに関しては、東京ベーシック・ドリルやデジタルドリルを活用して習熟を図る。	・自分の考えを書くことへの抵抗感は、まだ見られる。そこで、ICT機器を活用して意見交流を通して児童の考えを確かなものにさせる。また、タブレット端末のデジタルソフトを活用し、友達の文章を参考にさせたり、自分の書いた文章を推敲させたりして書く力の育成を継続していく。 ・デジタルドリルを活用したり、漢字の小テストの回数を重ねたりして、漢字の読み書きの定着を図っている。現時点で各学級とも漢字テストで平均8割程度正答できている。	・「書くこと」に重点を置き、目的や意図に応じて伝えたいことを明確にしていくことを指導してきた。学習のまとめをタブレット端末の共有ファイルに入力させることで、自己の変容や他者の考えとの比較ができた。作文については、個人差はあるが、根拠を提示しながら、自分の考えが伝わるよう工夫して書けるようになってきた。 ・デジタルドリルを適宜活用したことで、単元テストにおける言語事項の知識・技能面の得点率が平均で80%を超えた。また、思考・判断や表現についても平均で70%を超えている。今後も、繰り返し学習し、考える基となる語彙力を身に付けさせる必要がある。
	算数	調領域別では、「数と計算」「図形」は新宿区学力定着度調査の区の平均正答率を上回っている。特に、図形の領域に於いては、およそ3ポイント区の平均を上回っている。その一方で、「小数のかけ算・わり算」については1.3ポイント下回っている。 学授業で自分の考えをもち、ノートに表現する力が優れている。他のやり方を模索したり、友達の考えからよりよい考え方に気づき、自分の考えを深めたりする力をより伸ばしたい。	・「小数のかけ算・わり算」の問題でミスが目立つ。九九の間違い、繰り上がり忘れなど、初歩的なミスが多い。速さよりも正確さに重点をおいた指導を図っていく。 ・文章題の立式の説明を図や言葉を用いて分かりやすくまとめることができるが、言葉で説明する力が不足している。思考を整理して言葉で表現する力を育てていく必要がある。	・日頃のワークテストやプリント、デジタルドリルなどでの取組で、問題の内容を正確に読み取り、解答後の見直しを励行する。 ・図などを活用しながら力を付けていく。	・プリントやデジタルドリルを利用し、既習事項の定着を図っている。ワークテストは、各学級とも平均で7割以上正答できている。返却後も自己の解答を見直す場を設け、間違えた箇所を直す習慣を付けさせている。 ・少人数指導を効果的に活用し、児童の実態に合わせた指導方法で学習内容の定着を図っている。また、各コースとも共通して学習課題に対する自分の考えをノートに毎時間書き、話し合い活動で考えを共有したり、説明したりする機会を設け、学び方の共有化を図っている。図などを根拠に正しく立式することが概ねできている。	・家庭学習におけるデジタルドリルや適宜実施するミニテストなどで計算力の向上に努めた。また、ワークテスト返却時に、誤答の原因や計算の過程について見直しを図ることで、図形の体積や四則計算の設問に、定着が見られるようになった。 ・少人数指導では、年間を通して各コース共通の番所計画および教材を作成、実施することで進度を共通化し、基礎基本の定着を図ることができた。単元テストにおいて知識技能で85%、思考判断表現で75%を超えることができた。「単位量あたりの大きさ」と「割合」の単元における問題の得点率は低い。年度末の少人数指導で個に応じた指導で弱点を克服させていく。

音楽	・友達と音を合わせたり、楽器を演奏したりすることが好きで、楽しく取り組んでいる児童が多い。 ・楽譜の読み方などの知識や楽器の技能の定着に個人差が見られ、自信が持てず苦手意識をもっている児童もいる。	・知識や技能の定着に個人差が見られ、自分の演奏や表現に自信をもてない児童や、苦手意識をもっている児童が見られる。基本的な知識や楽器の技能が定着するように指導していく必要がある。 ・与えられた楽譜や課題をただ演奏したり取り組んだりするだけになってしまい、受け身になっている児童もいる。音楽を特徴付けている要素を手掛かりに、「こうしたい」と思いをもって表現を工夫する力や、「もっとこうしよう」と、試行錯誤しながらよりよい表現を目指していく力を伸ばしていく。	・必要に応じて個別指導を行い、スモールステップで、できた達成感や喜びを感じられるようにする。 ・音楽を特徴づけている要素と曲想との関わりについて感じ取ることができるように、鑑賞の学習の中で、意見を交流して音楽の言葉を耕したり、視点を明確にして聴かせたりする。また、友達の表現や考えに触れる時間を設け、互いによいところを見付けたり、よりよい表現にするために試行錯誤したりできるようにする。	・今後も必要に応じて個別指導を行い、スモールステップで、達成感やできた喜びを感じられるようにしていく。 ・グループでの活動や聴き合いを通して、友達の演奏のよいところを見つけたり、自分の表現をよりよくしようとしたりする姿が見られた。今後もかかわり合いの活動や、タブレット端末を有効に活用して自分の音を客観的に聴いて確かめる時間などを設定する。また、鑑賞の学習では、今後も視点を明確にして聴かせ、鑑賞と表現を結び付けながら、根拠をもって聴く力や言葉や音で表現する力を伸ばしていく。	・一人一人ができた達成感や喜びを感じられるように、今後も、個々への丁寧な指導や、ねらいを明確にした指導が必要である。スモールステップのめあてを提示することで、技能の定着を目指す。 ・グループ活動や全体で聴き合ったり共有したりすることを通して、友達の演奏や思いに触れることで、自分の表現に生かそうとする姿が見られた。また、タブレット端末を使って自分の演奏や作品を聴いて確かめることで、より良くしようと試行錯誤する姿勢も見られた。鑑賞の学習では、視点を明確にして聴かせるようにした。音楽を特徴付けている要素と曲想との関わりについて、その都度言葉掛けして気付かせるようにしたことで、全員で共通の視点をもって楽曲を聴くことができた。鑑賞と表現を結び付けて考えたり表現したりする力を伸ばしていく。
図工	・作品をつくったり描いたりする活動が好きで楽しく取り組んでいる児童が多い。 ・手を挙げて生き生きと発表をする児童も多い中、自分の活動や発言に自信をもてず周りの様子を見てから活動する児童も一定数いる。 ・活動内容に対し、完成のイメージをもてずに早く終わらせようとしてしまう児童がいる一方で時間がかかりすぎてしまう児童もいる。	・発言する児童に任せて自分で考えずに受け身になっている児童もいる。 ・授業の全体計画と個別の計画、ねらいを意識できずに、活動している児童もいる。 ・活動の振り返りの内容が少なかったり、ねらいに即して書いていなかったりする児童がいる。	・挙手する児童ばかりでなく、指名して発言させたり、ワークシートなどから多くの意見を取り上げたりする。 ・板書を使って授業の全体計画やねらい、当日の流れを示し、必ず最初に確認するようにする。 ・振り返りのポイントや書き方の例を示す。また、書く前に数名に発言させることでポイントを理解できるようにする。	・指名の仕方を変えたり、発言しない子に発言を促したりすることで、より多くの意見を取り上げられるように努めた。 ・板書を使って全体計画やねらいを伝えることは有効だったが、板書から読み取れない児童へのフォローも必要であった。 ・振り返りをする前に、発言させて具体例を出すことで、ポイントを理解して書くことができる児童が増えた。	・アイデアスケッチやワークシートなどをもとに意見を取り上げる方法は有効だった。引き続き多くの児童の発想を生かせるように発言しやすい雰囲気づくりや的確な発問を心掛ける。 ・板書を生かして授業を進めることで多くの児童に授業の流れを意識させることができたが、情報過多になっている部分もあるので、必要な情報だけに精選する。 ・振り返りの視点を明確にしたり、児童から具体例を出させたりすることで毎回の振り返りをより有意義なものとすることができた。
特支	・令和4年度は第1学年～第6学年まで全ての学年の児童がまなびの教室で楽しくコミュニケーション活動に取り組んでいる。 ・小集団指導は主に1～3年生を対象としており、個別指導は全員が受けている。指導の主軸としては自立活動の区分から心理的な安定、人間関係の形成、環境の把握、身体の動き、コミュニケーションを相互に関連させて取り組んでいる。	・人とのコミュニケーションや集団活動で相互的にかかわる体験的学習を必要とする児童が見られる。 ・体の使い方や姿勢の保持に關しての専門的な指導を必要としている。 ・指示を聞き取ることから行動を遂行するまでの流れについて経験的学習を積み重ねることが必要とされている。 ・読み書き計算を題材とした基礎的な課題にじっくりと習熟を重ねるとよい児童が見られる。	・ソーシャルスキルの課題を行ったり、少人数での活動を行ったりしてコミュニケーション能力を高め、在籍学級での生活をよりよいものとしていく。 ・感覚統合の運動を行う。 ・個の特性に応じた認知トレーニングを行ったり、教材を使用した学習を行ったりする。 ・できたこと等を具体的に褒め、自信をもたせる。 ・個のつまずきに基づき、課題をスモールステップで行い、できた経験を積ませ、読む書く活動への抵抗感を軽減させていく。 ・スモールステップで課題に取り組ませ、できた経験を積みせたり、自信をもてるようにできたこと等を具体的に褒めたりする。	・全身を思い通りに動かせるようになるための様々な運動に取り組み、相互的なコミュニケーションを楽しみながらボディイメージを高めることができた。 ・言葉に関して知識面での確認や、他人に伝える活動を繰り返したことで、自分から進んで集団の前に立って発表することのできる児童が増えた。	・着席して机上の学習をするときに必要な目の使い方、話の聞き方、手指を使った細かい動きについて指導の充実を図ることができた。 ・音楽やダンス、集団あそびといった場面を設定して体を大きく動かす運動に取り組む中で身体機能の改善および集団行動に必要なスキルを習得させていくことができた。 ・気持ちや考えを相手に伝えるための文章の作り方、話し方を繰り返し練習したことで、人前で話すことへの抵抗が少なくなり、すすんで挙手する児童が育った。

調…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況

学…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト、デジタルドリル等から見える学習の状況

※分量は2 ページ以上となってもよい。